

令和6年度 名古屋市教育研究員研究計画書 8番 持続可能な社会を考える生徒が育つ社会科学学習

名古屋市立藤森中学校教諭 長谷川裕記

I 研究のねらい

私たちが生きる現代社会は急速に発展しており、先端技術や環境対策などの変化が激しくなっている。このような中で社会における諸課題も複雑化・多様化しており、持続可能な社会を目指すことを必要としている。中学校学習指導要領における社会科の目標に「よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度」が明記され、よりよい社会の実現に向けて、学習の見通しをもつことや振り返りの場を設定することが求められている。また、名古屋市が「ナゴヤ学びのコンパス」で目指している子どもの姿には「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」と書かれている。子どもは一人一人違うことから、子どもたちが自分に合った学習方法を見付け、計画を立てて学習を進めるなど、自己調整を行いながら自律して学習に取り組む姿を目指すものである。これまでの授業では教師主導の授業により自己調整を行いながら自律して学習に取り組む姿を見ることはなかった。こうした状況から、私は、「持続可能な社会」に向けて社会的事象における課題に対する解決策を自ら調べ、仲間との対話を図りながら考えることができる生徒を育てていきたい。そこで、一枚ポートフォリオを活用し、学習の見通しをもち、毎時の振り返りを記述しながら自己調整を行っていくことが自律して学習に取り組むために有効であると考えた。

私は、これまでに「持続可能な社会」を実現するために社会的事象における課題を捉え、解決策を考える実践を行ってきた。しかし、これまでの実践では、課題に対して生徒自ら進んで考えることは少なく、解決策も持続可能性の低いものが多かった。これは具体的な取組にまで踏み込んで考える機会が少なかったことや学習課題に対して自ら考える機会が少なかったからである。文部科学省による第4期教育振興基本計画においては「持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられている。将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てることがコンセプトとして明記されている。学習指導要領においても「持続可能な社会づくりを踏まえた視点に留意すること」と書かれている。そこで、生徒それぞれが社会における諸課題に対して自己調整を行いながら自律して学習に取り組み、持続可能な社会について考える生徒を育てる必要があると考えた。

II 研究の方法

- 1 研究の対象 名古屋市立藤森中学校 第2学年 32人
- 2 基本的な考え

生徒が自律して学習に取り組むためには学習課題に対しての「最初の考え」を基に、学習計画を立てて学習を進めていくことが大切であると考えた。ここで言う「最初の考え」とは、単なる予想ではなく、根拠や知識を基にした考えにする。そして、その考えを基にしながら調べ学習を行うことで、内容や方法などが明確になり、見通しをもつことができると考える。毎時の振り返りに自己評価を行い、単元を見通しながら学習を蓄積できるシートを「Self-Regulated シート（以下SRシートとする）」とし単元を通して活用する。このシートを活用することで学びの成果を可視化することができ、深まりを実感できる。さらに、「捉える」「調べる」「認め合う」という場を設定して単元を構成する中で、学習課題に対して生徒自らの考えをもち、考えの根拠に対して自己調整を行いながら学習に取り組めるようにした

い【資料1】。また、持続可能な開発目標（以下SDGsとする）の視点に目を向けることで、生徒がよりよい社会に向けて考えをもちることができるようにしたい。SDGsの17の目標を用いることで、目標を定めやすく、仲間と考えを話し合う際に分かりやすくなると考えた。そこで各学習場面において、以下の手立てを講じることで目指す生徒像に迫ることができると考えた。

場面	主な学習活動
捉える	・学習課題から最初の考えをもち、今後の見通しをもって、学習計画を立てる
調べる	・自らもった最初の考えを基に調べ学習を行い、自らの考えにつながる根拠について調べる。
認め合う	・学級での話し合いを通して、仲間の考えに触れ、自分の考えをまとめる。

【資料1】基本的な学習の流れ

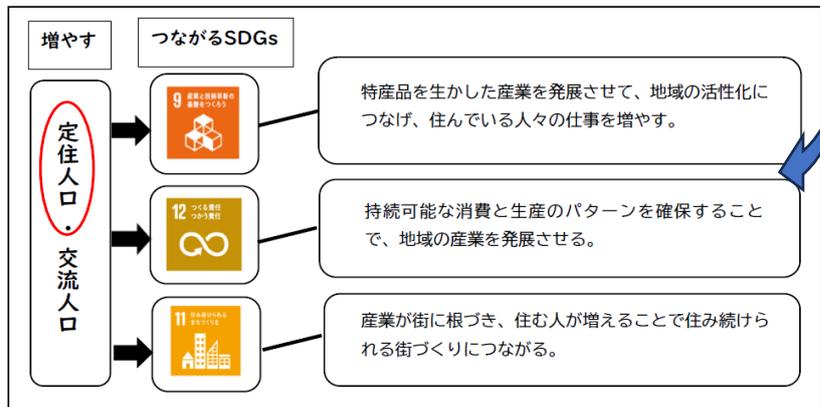
(1) 捉える場面

生徒が学習課題に対する「最初の考え」をもち学習計画を立てて学習を進めるために「SRシート」を活用する【資料2】。このシートには学習課題に対する考えをもちやすくするように「現状・事実」や「既習知識」「関わるSDGs」を記述し、工夫した。そして、自分の考えを仲間と共有し、進めていく。

【資料2】SRシート

(2) 調べる場面

「調べる」場面ではその時間に調べた内容に対して自らの学びがどのようなものであったか、「最初の考え」に対してどれくらい成果が得られたかを振り返る。「SRシート」を用いて、SDGsの目標とつなげて調べ、振り返りの記述に考えに対する根拠と次の学習への見通しをもつことで、自己調整を繰り返しながら自らの考えを深めようとする生徒の姿が期待できる。毎回これを繰り返し続けることで自律して学習に取り組むことができると考えた。



【資料3】サステナブルカード

(3) 認め合う場面

よりよい社会の実現に向けて考えていくためには、「認め合う」場面において、各単元における学習課題についてSDGsと関連させながら考えられるように「SRシート」の中に作成したSDGsとの関わりを踏まえた「サステナブルカード」を活用する【資料3】。「調べる」場面で自ら検証してきたことを踏まえて、追究課題に対する自らの考えとつながるSDGsと関連させながら整理してまとめる。SDGsのどの目標とつながるかを踏まえることによって、根拠を基に追究課題に対する考えをもちことができると考えた。まず追究課題に対して達成につながるSDGsを踏まえ、それを根拠とし自分の考えをもち。その後、それぞれがつながったSDGsを見比べながら話し合うことで、仲間の考えを踏まえながら持続可能な社会を考えることができると考えた。

3 6月実践「中国・四国地方」と10月実践「中部地方」における学習展開

本研究では、中学校2学年単元「日本の諸地域 中国・四国地方」「日本の諸地域 中部地方」を取り上げ、実践に取り組む。

<p>単元と目標</p>	<p>単元 日本の諸地域「中国・四国地方」(7時間) 【実践のねらい】 中国・四国地方の地域的特色について、他地域との結び付きなどに着目して、自然環境、交通網の整備・拡大と産業、生活の変化について捉える。人口の減少や増加にともなう地域への影響や課題について考え、持続可能な中国・四国地方にするために必要なことを考えられるようにする。</p>	<p>単元 日本の諸地域「中部地方」(7時間) 【実践のねらい】 中部地方における地域的特色について、産業が地域の自然環境や交通・通信などと深い関係をもっていることについて捉える。高齢化や後継者不足など産業の課題について考え、持続可能な中部地方にするために必要なことを考えられるようにする。</p>
<p>場面</p>	<p>主な学習活動</p>	
<p>捉える場面</p>	<p>① 単元で学習すべき基本的知識を得る。 ② SRシートを活用し、学習課題に対する最初の考えをつくる。学習課題に対する考えを導き出すために今後の学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習課題：中国・四国地方の人口の課題を解決するために必要なことは何だろうか？</p> </div>	<p>① 単元で学習すべき基本的知識を得る。 ② SRシートを活用し、学習課題に対する最初の考えをつくる。学習課題に対する考えを導き出すために今後の学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習課題：中部地方の産業の課題を解決するために必要なことは何だろうか？</p> </div>
<p>調べる場面</p>	<p>③④⑤ 学習計画を基に、教科書やタブレットを活用し、中国・四国地方の人口の課題について調べる。また、授業の終末に、学習した内容の振り返りを記述し、次時以降の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>追究課題：持続可能な中国・四国地方にするための過疎化対策として増やすべきは「定住人口」か「交流人口」か？</p> </div> <p style="text-align: center;">【検証場面1】</p>	<p>③④⑤ 学習計画を基に、教科書やタブレットを活用し、中部地方の産業の課題について調べる。また、授業の終末に、学習した内容の振り返りを記述し、次時以降の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>追究課題：持続可能な中部地方にするための産業に力を入れるべきは「環境保全」か「人材確保」か？</p> </div> <p style="text-align: center;">【検証場面1】</p>
<p>認め合う場面</p>	<p>⑥ サステイナブルカードを活用し、追究課題に対する考えをSDGsの目標と関連させながら考える。 ⑦ 仲間と話し合いを行い、仲間の意見も参考にしながら、改めて最終的な結論をまとめる。</p> <p style="text-align: center;">【検証場面2】</p>	<p>⑥ サステイナブルカードを活用し、追究課題に対する考えをSDGsの目標と関連させながら考える。 ⑦ 仲間と話し合いを行い、仲間の意見も参考にしながら、改めて最終的な結論をまとめる。</p> <p style="text-align: center;">【検証場面2】</p>

4 質問紙法・記述分析による子どもの実態調査

単元「日本の特色と地域区分」において、学習課題について最初の考えを記述し、学習計画を立てさせながら調べる活動を行う。その後、調べたことを基に学習課題に対する考えをまとめ、自分の考えが記述できているか調査する。その際、計画的に進められたか、見通しをもち、調べた成果が得られたか

記述内容や質問紙によって調査する。また、仲間の考えを聞きながら、根拠をもって持続可能な社会について考えを述べているか記述内容や質問紙によって把握する。

5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 単元を通して「SRシート」を活用し、「最初の考え」を基に学習を進め、計画を立てながら、振り返りに記述していくことは自己調整を行いながら学ぶことに対して有効か、「SRシート」への記述に学習課題に対しての成果や、次時への見通しをもつことができているか記述内容からつかむ。
- (2) 「認め合う」場面において、「サステナブルカード」を活用し、追究課題に対して自分の考えをSDGsにつなげ根拠として記述することはよりよい社会について考える上で有効か、「サステナブルカード」の記述や最終的な学習課題に対する考えの記述からつかむ。

Ⅲ 年間の研究計画

月	研究・調査・授業研究等
4	○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。
5	○ 実態調査を行う。 ○ 第1次授業研究の授業研究計画書を作成し、検討する。また長期研修の日程を作成する。
6	○ 第1次授業研究「日本の諸地域 中国・四国地方」 【検証点1】 単元を通して「SRシート」を活用し、「最初の考え」をもち学習を進め、計画を立てながら、振り返りに記述していくことは自己調整を行いながら学ぶことに対して有効か、「SRシート」への記述に学習課題に対しての成果や、次時への見通しをもつことができているか記述内容からつかむ。 【検証点2】 「認め合う」場面において、「サステナブルカード」を活用し、追究課題に対して自分の考えをSDGsにつなげ根拠として記述することでよりよい社会について考える上で有効か、「サステナブルカード」の記述や最終的な学習課題に対する考えの記述からつかむ。
7	○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考えを修正する。 ○ 中間まとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。
8	○ 長期研修（A・B日程）先進研究者を訪問し、研究を進める。 ・岡山大学 教授 川田 力氏 ・鳴門教育大学 理事・副学長 梅津 正美氏 ・上智大学 教授 奈須 正裕氏 ・八雲町立野田生中学校 川端 裕介教頭 ・横須賀市立久里浜中学校 菊池 徹教諭 ○ 第2次授業研究の授業研究計画書を作成し、検討する。
9	○ 第2次授業研究「日本の諸地域 中部地方」
10	長期研修で学んだことを基に授業改善し、【検証点1】【検証点2】を検証する。
11	○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかに
12	し、最終のまとめを作成する。
1	○ 「持続可能な社会を考える生徒が育つ社会科学習」について1年間の成果や課題をまと
2	め、発表する。
3	○ 1年間の研究を反省し、今後の研究の方向付けをする。

参考・引用文献 峯明秀 『個別最適な学びを実現する授業モデル』 明治図書(2023)